

第1020回 原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合 ご指摘事項について

1. ご説明内容

浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち プレート間地震の津波評価について（コメント回答）

浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち 歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（コメント回答）

2. ご指摘事項

(1) プレート間地震の津波評価

○検討波源モデルについて

- ・ すべり量(37m)とライズタイム(60s)の組合せは、更なる不確かさの考慮ではなく、詳細パラメータスタディの中で検討すること。その際、ライズタイム 60～120s の間のパラメータスタディも行うこと。
- ・ 設定した波源モデルと内閣府の最大クラスモデルとの違いを分かりやすく整理すること。また、両者の破壊開始点などの条件を揃えて津波評価を実施し、評価結果を比較して示すこと。
- ・ 検討波源モデルの超大すべり域の深さの設定とプレート境界に関する地震学的知見との関係について整理すること。
- ・ 概略パラメータスタディによる基準断層モデルの選定について、破壊開始点の条件等を考慮したうえで、適切に選定すること。

○日本海溝の手法を用いたモデルについて

- ・ 日本海溝の手法を用いたモデルとの比較は、検討波源モデルの設定の段階で行うこと。また、すべり量分布の設定方法などのモデル設定としての妥当性を確認するため、比較にあたっては、大すべり域、ライズタイム、破壊伝播速度、破壊開始点の条件を揃えること。
- ・ 日本海溝の津波評価手法②③のすべり量設定に関する記載を適正化すること。

○その他

- ・ 駿可トラフ下に沈み込むフィリピン海プレートの形状に関する知見（Matsubara et al.(2021)）について、津波評価への影響を示すこと。

(2) 歴史記録及び津波堆積物に関する調査

- ・ 敷地内のイベント堆積物が分布する上限標高について、物証に基づき示すこと。
- ・ 文献により示されている遠州灘沿岸域の津波堆積物について、堆積年代を整理して示すこと。
- ・ 6,000年前の敷地の地開を想定した津波の数値シミュレーションを行い、谷地開によって津波が遡上することを解析的に示すこと。

以上